

ミュンヘンにおけるリヴァー・サーフィンと観光

山田 徹 雄

Eine wichtige Sehenswürdigkeit in München

— Flusssurfen —

Tetsuo YAMADA

要 旨：ミュンヘンにおける観光スポットのひとつが、リヴァー・サーフィンのメッカ、アイスバツハである。バイエルン土着の曳き板サーフィンからリヴァー・サーフィンが誕生した経緯を辿り、サーフ・スポットとしてのアイスバツハが合法化されるまでの過程を、州政府と市当局の確執、サーファーによる圧力団体の形成を通して明らかにした。
キーワード：リヴァー・サーフィン、アイスバツハ、ミュンヘン・サーフィン利益共同体

はじめに

ミュンヘン市の観光案内のスポーツ編を観ると、「ミュンヘンの波の驚異」(Das Wellenwunder in München)の見出しのもとに、「アイスバツハの波」(Eisbachwelle)でリヴァー・サーフィンが行われている様子が写真付きで大きく紹介され、「小波 E2」(E2 - die kleinere Welle)、「フロスレンデ」(Floßlände)、「ヴィッテルズバツハ橋の波」(Welle an der Wittelsbacherbrücke)の説明が併記されている。とくに、芸術家の家 (Haus der Kunst) に隣接するサーフ・スポット、アイスバツハについては、市庁舎やニンフェンブルク城とならぶ名所 (eine ebenso wichtige Sehenswürdigkeit wie das Rathaus oder Schloss Nymphenburg) と表現されている⁽¹⁾。

アイスバツハのサーフ・スポットにはドラマがある。アイスバツハのサーフィンを禁止しようとする州政府の管轄部署と、これを認めようとするミュンヘン市当局との対立の構図、CSU (キリスト教社会同盟) が圧倒的な優勢を誇るバイエルン州のなかで、ミュンヘン市政を掌握するSPD (社会民主党) が地域のCSUと共闘を組むことによる州とミュンヘン市との対立の構図がアイスバツハ問題に反映されている。ミュンヘンのリヴァー・サーフィン問題のなかに映し出される行政水準の異なる政策、サーファーによる圧力団体や彼らの広報手段などの視点から、ミュンヘンにおける「川の波」(Flusswellen) 問題を分析する。

1. リヴァー・サーフィンの定義と用語

『インターナショナル・リヴァー・サーフィン・マガジン』は、リヴァー・サーフィンを「川で波や潮津波の上に乗って波乗りをするスポーツ」と定義する。前者は川底にある障害物などで水面が盛り上がる地点を利用するもので、上流に向かって波を正面に受け、実際には移動していないが、水面を早く移動する気分を味わう (have the feeling of traveling fast over water while not actually moving) ものである。ミュンヘンのサーフィンはこれに当たる⁽²⁾。

文中に登場するサーフィン用語、とくにリヴァー・サーフィンのそれについて、ドイツ語表記を〔表1〕に掲出した。なお、ドイツ語でサーフィンはSurfenと綴るが、「サーフェン」と発音する。



〔地図1〕 イギリス庭園南区域とアイスバツハのサーフィン・スポット (Eisbach Surfwellen)

アイスバツハのサーフィン・スポット (Eisbach Surfwellen) は、イギリス庭園南区域にある。

〔地図〕では、で示した。

(典拠) Englischer-Garten-Muenchen-Infos, Karte und Plan Südteil Englischer Garten München, in interrete sub: <https://www.englischer-garten-muenchen-infos.de/information-tipsps-planen/suedteil-englischer-garten/>, 04.12.2020

2. ミュンヘンのサーフ・スポット

ミュンヘンには、恒常的に3か所のサーフ・スポットがあり、この他にイザール川が増水した時のみ利用できるスポットが存在する⁽³⁾。これらを〔表2〕に示した。

表の冒頭に掲げたアイスバツハは、ミュンヘン市の観光案内書にページの全面を割いて掲載されるほど有名なもので、イギリス庭園の端、イザール運河のスポットである。芸術家の家に隣接したこの場所は24時間、サーフィンを楽しむことができる。

バイエルン州の管轄下にあったころ、アイスバツハのサーフィンが禁止され、後述するようにミュンヘン市の管轄に移されてから、「自己責任で」(auf eigener Gefahr) 行うスポットとなった。まさにその言葉通り、難易度の高い波に乗ることになるので上級者、熟達者向きとされている。

これに対して、フロスレンデは、初心者にも利用可能な小さい波のスポットである。実はこのフロスレンデこそ「(少

〔表1〕ドイツ語のサーフィン用語

サーフィン	Surfen
サーフィンをする	surfen
リヴァー・サーフィン	Flusssurfen
サーファー	Wellenreiter
リヴァー・サーファー	Flusssurfer
人工の波	Künstliche Wellen
川の波	Flusswellen
木製のボード	Holzbrett
サーフボード	Surfbrett
曳き板サーフィン	Schleppbrettsurfen
リヴァー・サーフィンヨーロッパ選手権	Europameisterschaft im Stationary Wave Riding
サーフウェーブ	Surfwelle
ミュンヘン・サーフィン利益共同体	Interessengemeinschaft Surfen in München,
ターンする	umdrehen
俄かサーファー	Modesurfer
プロのサーファー	Surfprofi, Profisurfer
フルスーツ	Vollmontur
ヘッドキャップ	Haube
グローブ	Handschuhe
ブーツ	Boots

(典拠) 筆者が独自に作成

〔表2〕ミュンヘンのサーフ・スポット

サーフ・スポット	サーフィン可能期間	サーファーのレベル
アイスバッハ (Eisbach)	年間 川の清掃に伴う2-3週を除く	上級者・熟達者 (Advanced – Experts Wellenreiter)
フロスレンデ (Floßblände)	4月～9月の一定期間	すべてのレベル (All Levels Wellenreiter)
小アイスバッハヴェッレ/E2 (kleine Eisbachwelle / E2)	年間 川の清掃に伴う2-3週を除く	中級者～上級者 (Intermediate – Advanced Wellenreiter)
イザール川 (offene Isar)	川の増水時のみ	熟達者 (Expert Wellenreiter)

(典拠) The Wortwellenreiter, Isar Wellenreiter - Münchens Surfspots,

なくとも現在知られている限り) 世界リヴァー・サーフィン発祥の地」(die erste Flusswelle der Welt, die gesurft wurde (zumindest bis heute bekannt))⁽⁴⁾といわれ、その歴史は1972年に遡る。このスポットは2002年～2006年の夏季が最も賑わったが、その後、イザール運河の水供給システムが機械式から電子式に変更となり、川底を变形したためにサーフィンに適した波が消滅した。しかし、少なくとも一定期間サーフィンに適した水量調節をし、かつ川底に構造物を設置することによってリヴァー・サーフィンが復活した。街中のアイスバッハと異なり、草地とキャンプ場に隣接した立地から人気を集め、待ち時間が長い。

小アイスバッハヴェッレには、悲しい歴史がある。オーストラリアからヨーロッパ旅行にきていた27歳のバックパッカーが泳いでいるうちに渦巻き(Wasserwaltze)に巻き込まれて命を落とすという事件があった⁽⁵⁾。その後、このことがきっかけとなり、川底が改修され、2012年以降、サーフィンができるようになった⁽⁶⁾。

イザール川のサーフィンは、長い間、ミュンヘンのサーファーにとって「王様の種目」(Königsdziplin)であった。川が増水した時、グロスヘセロア橋(Grosshesseloer Brücke)とライヒェンバッハ橋(Reichenbachbrücke)の間で波に乗るのである。

上記4か所に加えて、ミュンヘン市郊外、ミュンヘン郡タウフキルヘン(Taufkirchen)が、2017年以降、第5のサーフ・スポットに加わったという意見もある⁽⁷⁾。

3. リヴァー・サーフィンの誕生

(1) アイスバツハ伝説

1970年代のことである。

ミュンヘンに駐留している孤独なアメリカ人兵士が、ひどいホームシックに罹った。ミュンヘンにはなんでもあ
るが、自分のようなカリフォルニアの人にとってひとつ、堪えがたいほど欠けているものがある (*genau eine Sache
fehlte dem Kalifornier schrecklich!*)。ある晴れた日のこと、サーフボードを片手にもって兵舎から飛び出した。
アルトシュタットリングを経由してイギリス庭園に向かった。そこでかれはサーフィンができる急流 (*eine surfbare
Stromschnelle*) を見つけた。ここにアイスバツハのサーフィンが誕生した。

この感動的な物語はまことしやかに言い伝えられた。しかし、70年代半ばまで、アイスバツハは白い泡が見られる
程度の流れであった⁽⁸⁾。

(2) 曳き板サーフィンからリヴァー・サーフィンへ

バイエルンにはいわゆる「曳き板サーフィン」(*Schleppbrettsurfen*) の長い伝統がある。それは、木の板にロープを
付け、それを橋や河岸の木に結び付け、木の板にうつ伏せとなって流れに乗るものである。「ミュンヘンのリヴァー・
サーフィン」は、この伝統の中から誕生した。

1965年、アルトゥア・パウリ (*Arthur Pauli*) は、自宅から500mのところにあるキムガウのアルツ川 (*Chiemgauer
Alz*)⁽⁹⁾ で、ロープを単純に手で持って川の波に乗って立ってサーフィンすることを思いついた。初めて、ロープなし
で弟とともにサーフィンしたのは、1972年、ミュンヘンのフロスレンデの波であった⁽¹⁰⁾。

このことを『アウクスブルガー・アルゲマイネ』は、以下のように紹介した。

サーファー、アルトゥア・パウリは1965年に初めて自ら制作した木製のボードに乗った。

彼は、ロープを川から離れて聳え立つ木に結び付けた。かれのアイデアは、「そのロープを手に持ち、自分はボー
ドの上に立つ、それでサーフィンをする」(*Meine Idee war, das Seil in die Hand zu nehmen, sich auf ein Brett zu
stellen - und zu surfen*) というものであった。

かれは自宅から500mの地点でそれを成功させた⁽¹¹⁾。

(3) ミュンヘンにおけるリヴァー・サーフィンの誕生

ミュンヘンのリヴァー・サーフィンはアイスバツハではなく、タールキルヘンのフロスレンデ (*Flosslande in
Thalkirchen*) において誕生した。リヴァー・サーフィンを初めて行ったのはアルトゥア・パウリとかれの弟、時は
1972年9月5日であった。それを裏付ける証拠がある。

すでに1960年代からパウリとかれの弟は片手でロープを持って (*mittels eines eingehängten Seils*) 波に乗ることは
試みていた。彼らは1971年に片手でロープを持って波乗りしたサーフ・スポットを翌年に再び訪れ、フロス運河の上
流部と下流部 (今日のフロスレンデ) において川の推進力によってロープなしで (*durch ihre Schubkraft ohne Seil*) 定
常の波に乗ることができた。兄パウリの最初の波乗り (*Der erste Ritt von Arthur G. Pauli*) は8ミリカメラに収められ
た。その映像は、<https://www.smucwear.com/riversurf-historie/> で確認することができる。

定常の波に乗るリヴァー・サーフィンがここに誕生したのである (*Riversurfen auf einer stehenden Welle ist
geboren.*)。

これがきっかけとなり、南アフリカやアメリカからもサーファーが押し寄せた。

最初のリヴァー・サーフィン選手権は1975年にフロスレンデで開催され、バイエルン・マイスター第1号はリ
ヴァー・サーフィンの父 (*der Vater des River Surfens*)、アルトゥア・パウリその人であった。

その後数年間は増水のため中止されたが、80年代、90年代にはフロスレンデにおいてミュンヘン・オープン、ミュ
ンヘン・リヴァー・サーフィンコンテストが毎年行われた⁽¹²⁾。

4. アイスバッハ

(1) サーフスポット アイスバッハ

アイスバッハの波はなるほど世界一有名な川の波であるが、初めてリヴァー・サーフィンが行われたということではないことはすでに指摘した。フロスレンデでリヴァー・サーフィンが「考案され」(erfunden) てからおよそ6年後に初めてアイスバッハにおいてサーフボードで (mit Surfbretten) 最初の試みが果敢に行われた。とはいえ、当時の方法は、ロープを使うなど、「ウェイクボードと水上スキーとサーフィンを混ぜ合わせたもの」(eine Mischung aus Wakeboarden, Wasserskifahren und Surfen) であった。水難事故が起こった後、「サーフィン目的に物体を吊すことやつなぎ止めること」(das Einhängen und Befestigen von Gegenständen zum Zwecke des Surfens) が禁止された。このことは同時に、アイスバッハで非合法のサーフィンの始まりであり、それに関連した警察との「いたちごっこ」(Katz-und-Maus-Spiel) の始まりであった⁽¹³⁾。

アイスバッハはリヴァー・サーフィンが始まった最初の波ではないし、最初の場所でもない (Der Eisbach ist KEINE Anfängerwelle und kein Ort, um mit dem Flusssurfen anzufangen)⁽¹⁴⁾ にもかかわらず、アイスバッハに人が集まるのはなぜであろうか？

むろん、現在ではミュンヘン市が観光案内書やインターネットで積極的に広報している効果はあるが、それ以前からアイスバッハには人が集まっていた。

当地でロープなしのサーフィンが1978年/1980年に始まったことから、2013/2014年には「ミュンヘン波乗り 1978年サーフ礼賛」“Surf Munich Surfkult 1978”というテーマがアイスバッハ・スペシャルとして掲げられた⁽¹⁵⁾。

アイスバッハの魅力はまず第一に、大都会の真っただ中にあり、アクセスが容易であることを指摘しなければならない。

ミュンヘン観光案内書には、ゴチックで「路面電車18系統でNationalmuseum下車、あるいは地下鉄のOdeonsplatz下車で徒歩わずか」と記されている⁽¹⁶⁾。

もっともサーファー仲間は隣接した芸術家の家の駐車場を利用するか、自転車でアクセスするのが通例であるが。

第二に、いつでもサーフィンができるという利点である。

年間2週間、河川清掃期間を除いて、一年中サーフィンをすることができる。冬季には、順番を待つ列がほぼガラガラ (eher leer) となるが、水温が下がることから厚手のフルスーツ、ヘッドキャップ、グローブ、ブーツの着用が必要となる。

アイスバッハのナイト・サーフィンは稀なことではない。むろん街灯の光だけでは十分ではない。以前は発電機と建設現場用ライトが使われ、騒音が問題となっていた。現在では長時間使えるバッテリーと十分な明るさのLED光源で近隣住民にとっての騒音問題が解決した⁽¹⁷⁾。

このようにアイスバッハでは、ほぼ年間を通じて24時間、サーフィンができる環境となっている。

(2) アイスバッハにおけるサーフィンの禁止

90年代以降、サーフィンは次第に大目に見られるようになったが、依然として非合法であった。

当時、橋の架かる土地は、バイエルン州の所有下にあり、従ってイギリス庭園の管理下にあった。このことは、事故が起こると州の法的責任が問われた (現在でもある程度そうである)。

アイスバッハでかなりの数の死亡事故があつてから、バイエルン古城・庭園・湖沼管理局 (Bayerische Verwaltung der staatlichen Schlösser, Gärten und Seen) は、2007年に、アイスバッハでの水泳 (Schwimmen im Bach) を禁止し、アイスバッハから関心を遠ざけるために、波は不適切と判断し、破壊することを考えた⁽¹⁸⁾。

イギリス庭園における水浴とサーフィンの禁止 (2007年8月) に関する州の決定は以下の報道発表に簡潔に表されている。

バイエルン古城管理局はイギリス庭園管理部 (Verwaltung des Englischen Gartens) と連名で、以下のことに注意を促す。すなわち、イギリス庭園の河川における水浴および水上スポーツは、現時点で有効である古城管理局の施設

規則に従って、これを禁止する。

特に、主要危険地点、例を挙げるとプリンツレーゲンテン橋際およびティロル水力発電所近くの橋際でサーファーが乗る波 (Suferwelle) があるところには、人命の危険があることから「水浴禁止」、「サーフィン禁止」と掲出する。この施設規制はこの河川における水浴と水上スポーツを禁止するものである。というのは、危険を伴わず利用することが保証できないからである。利用者には、それに代わってイザール川沿いのミュンヘン市が設置を予定している屋内プールもしくは市営屋外プールを訪れるよう緊急に要請する。イギリス庭園管理部は、イギリス庭園内での水浴や例えばサーフィンのようなあらゆる種類のスポーツが引き起こす事故に、常に責任を排他的に持つ⁽¹⁹⁾。

当地の女性サーファーであるペトラ・オフーマンズ (Petra Offermanns) は、オンライン陳情で、波を残すための署名を15,000件集めることができた。そのことが最終的に波を守る決定打となった。同時に、このとき、ミュンヘン・サーフィン利益共同体 (Interessengemeinschaft Surfen in München) (略称IGSM) の最初の中核が形成された。多くの著名なサーファーの支援、ビエルン・リヒー・ロプの映画「キープ・サーフィン」 (Björn Richie Lobs Film „Keep Surfing“)、多数のそれ以外の行動のおかげで、波のある土地区画がバイエルン州からミュンヘン市へ委譲され、サーフィンが合法化されるに至る⁽²⁰⁾。

イギリス庭園における水浴とサーフィンが禁止されて以降、合法化されるまでの経緯を、当時のマスコミの扱いを資料として検証する。

2008年5月18日、マスコミは「サーファーと州は同じ波に乗っていない」 (Surfer und Staat nicht auf einer Welle) という見出しを掲げ、「ミュンヘンのイギリス庭園にあるアイスバッハは高波がおしよせている。そこは、多くの観客を喜ばせるために一年中、サーファーが動き回るところだ。昨年夏の溺死事故のあと、当局にとって目の上のたんこぶ (Dorn im Augen) である。普通ではない都会のスポーツをめぐる法的な戦いが進行している。」とはやし立てる一方で、「大都市のサーファーは、観光客にとっても地元の人にとっても呼び物である」「今日、この町 (ミュンヘン) は、サーファーのメッカとして国際的になっている。」とサーフィンを擁護する論調を載せた⁽²¹⁾。

2008年8月1日、市議会のCSU会派の議員であるトビアス・ヴァイス (Tobias Weiß)、エヴェリネ・メンゲス (Evelyne Menges)、ミヒヤエル・クッファー (Michael Kuffer) は、SPDの上級市長クリスティアン・ウデ (Christian Ude) に対して、イギリス庭園内、アイスバッハでの水浴の禁止を「事実上、帳消しにすることを」 (endlich aufzuheben) 要求した。

禁止措置を現実に変換させることを議論しても無駄であろうから、水浴が自己責任で許されるようにして危険の可能性を最小化するように。その際、リーダーシップが欠如していること、水浴を危険にしている人工の渦巻きに、この地元政治家が言及した。このような危険を除去するために、彼らは市と州にひとつの考え方を求めた。アイスバッハのサーファー問題に市は一步、前に踏み出すこと、市がリヴァー・サーフィンを2009年までに合法化すること、アイスバッハでの水浴は今後も禁止のままとするということという要求が『デイ・ヴェルト』 (Die Welt) の紙面を飾った⁽²²⁾。

『デイ・ヴェルト』紙は、2008年8月12日の地方版紙面で再びこの問題を取り上げ、バイエルン州古城・庭園・湖沼管理局のヨヘン・ホルトマン (Jochen Holdmann) 氏の見解を紹介した。

「我々は娯楽や遊びをつぶそうとは思わないが、禁止は安全性にみあった唯一の選択肢である。」と前置きして、波はイギリス庭園にあるのだから、それに責任を持つのは市ではなく古城管理局である。何年もの間、ここには批判があふれていた。何度も、アイスバッハで人が溺れた。2007年だけで3人も。

さらにホルトマンは、危険はアイスバッハの深いところで待ち構えている、水面からでは川底の危険は一定程度しか見えない、「川底にサイコロ型のコンクリートが置かれている、しばしば川のごみがそこに堆積し、泳いでいる人やサーファーが危険に晒されている」と付け加えた。

また、IGSMスポークスパーソンのペトラ・オフーマンズ (Petra Offermanns) の意見も掲載し、サーファーたちは古城管理局と解決策を求めて協議していることが明らかにされた。

ミュンヘン市の河岸部局長、アンドレアス・プロプスト (Großstadtsufer-Vorstand Andreas Probst) の見解に触れ、波はこれからも流れ続け (weiterfließen) 旅行案内書の情報として全世界に行きわたらなければならない。「それは、ミュンヘン市のシンボルだ」 („Das ist ein Wahrzeichen der Stadt.“) とこの記事は結ばれている⁽²³⁾。

2008年9月2日、SPD会派の市議員もミュンヘンのサーファーのために戦うことが報道された。この点で、SPDはCSUと協調することを決定した。SPD会派はイザール川での水浴、サーフィン、ボート遊びを堰の危険な場所以外は基本的に認めることを要求した。

SPD市議員、ディアナ・シュタコヴィッツ (Diana Stachowitz) とニコラウス・グラードゥル (Nikolaus Gradl) は、特にヴィッテルズバッハ橋付近ではすぐにサーフィンとカヌーが思う存分楽しむことができることを望むと語った⁽²⁴⁾。

ここに、バイエルン政界に圧倒的な影響力を行使するCSUのミュンヘン会派とミュンヘン市政を主導するSPDが、アイスバッハの波に関して、同一歩調をとるにいたった。

2009年3月24日 CSUは、「CSUの支持に基づいて、ついにアイスバッハの波に動きが始まった」と報道発表した。

この点について、後にミュンヘンの第3市長となるSPDのヴェレナ・ディートル (Verena Dietl)⁽²⁵⁾ は、「バイエルン州政府はアイスバッハの波問題で、自らの抵抗をあきらめたようなので、我々は市として、サーフィンをついに合法的な波へと押し上げたい。あろうことか、ミュンヘンのCSUは、同じ政党の財務長官の意見変更を成果として記録していることは、稀有な印象を与える。だがしかし、スポーツ都市ミュンヘンはサーファー天国になるのだ。(Die Sportstadt München wird zum Surferparadies)」と皮肉まじりにかたまった。緑の会派 (Grüne Umweltreferent) のヨアヒム・ロレンツ (Joachim Lorenz) は、「特別なことがなされたわけではない」、州政府の「責任回避」(die Flucht aus der Verantwortung) と切り捨てた。

これに対してCSU会派の市議員であり市民公園イギリス庭園アクション主導者 (Initiatorin der Aktion Bürgerpark Englischer Garten)、エヴェリネ・メンゲス (Evelyne Menges) は「素晴らしい、ようやく実行可能な解決策に着手した。」と述べた。同じくCSUの市議員、トビアス・ヴァイスは「アイスバッハの波は今や、政争の具にさらされる必要はなくなった。今すぐに対応しなければならない。サーフィンシーズンが目の前に来ている。サーファーたちは長らく、最終的な決定を待たなければならなかったのだ。」と述べた⁽²⁶⁾。

(3) アイスバッハの波の合法化

「アイスバッハ・サーフィンがようやく合法化」(Eisbachsurfen wird endlich legal)。これは2010年4月28日の『ディ・ヴェルト』紙の見出しである。同紙は、次のように伝えた。

「イギリス庭園でのサーファーにとって朗報。アイスバッハのサーフィンが合法化される。禁止の看板がまもなく取り外され、〈熟練者のサーフィンが許可される〉(Surfen für Geübte erlaubt) という指示に上書きされる。これを可能にしたのは、自由州と州都との等価交換である。州財務省はサーファー天国をミュンヘン市に譲渡し、それと交換にケーニギン通り (Königinstraße) に面したイギリス庭園の土地1区画を入手する内容である。〈ミュンヘン市は世界的に有名な波が維持されることに多大な関心を持っていた〉と市環境課のルドルフ・フックス (Rudolf Fuchs vom Umweltreferat) が強調した。」⁽²⁷⁾

さらに同紙は、州財務省の見解を次のように記した。

アイスバッハのサーフィンは観光客の呼び物であるが、公式には禁止されている。バイエルン州古城・湖沼管理局のヤン・ビエルン・ポットハスト (Jan Björn Potthast von der Bayerischen Schlösser und Seenverwaltung) の説明によると、溺死事故がおこれば、イギリス庭園の管理者を守らなければならない。というのは、2003年に子供がアイスバッハで命を落とした際に、検察が取り調べをしている。四六時中、川から上がるように呼び掛ける水泳に熟達した人員を十分に配置する余裕はない。〈心の底ではサーフィンに反対ではなく、理性と法的な側面から反対なのだ〉(Vom Herzen sind wir nicht gegen das Wellenreiten, vom Verstand und der rechtlichen Seite her schon) と、ポットハストはいう⁽²⁸⁾。

2010年4月27日の『アーベント・ツァイトゥング』は、「取引がサーファーを救う。市が波を買う」という見出しのもと、州と市の取引について以下のように言及した。

なぜ、交換が必要であるのか？ 2年前に州はサーフィンを禁止しようとした。というのは、州は責任を負いたくないからだ。その上、州の公園で水浴とサーフィンを許す法的根拠が存在しなかった。「危険は市にとって予測できる」

[資料1] クリスティアン・ウデ『ズウドイチェ・ツァイトゥング』インタビュー

記者 イギリス庭園のアイスバッハでは、泳いでいた人の死亡事故があったので、サーフィンが禁止となっていたのですね。

上級市長 このドイツ人に典型的な反応はすばらしいことです。むろんアイスバッハのサーフィンはずっと許されていませんでした。しかし、いつも現実的に対応して、皆がそれを受け入れていたのです。

記者 それで事故が起こったのですね。

上級市長 それですぐに、なぜ禁止が取り締まりされていないかという問いかけが浮上したのです。赤信号で交差点を横断すれば車に轢かれるかもしれません。そうなれば悲劇ですが、にもかかわらず、(横断)歩道のひとつひとつに監視員を確保することはできません。交通違反行為によって自らの身が危険に晒される人は、最悪の場合を想定しなければなりません。

(典拠) SZ, 11.Mai 2010

と市環境局の協議にあたった職員ルディ・フックスは述べている。「この領域を巡回・管理し、明確な指示看板を設置すれば、市にとって責任を法的にクリアできる。」その看板には、3つのことを記す。即ち、「熟練者のみ。水浴してはいけない。自己責任で」(Nur für Geübte. Es darf nicht gebadet werden. Auf eigene Gefahr.)と。州財務長官ゲオルク・ファーレンション Finanzminister Georg Fahrenschon (CSU) は、州の所有物を贈るのを許さない姿勢であったために、取引を選択せざるを得なかったのだ。だからこの土地は交換された。市は安価なサーフィン遊びを高価な土地と交換して無駄遣いするのか、いや、そんなことはない。市が手に入れるのはおよそ80mの長さで12mの幅がある橋から上流に向かう区画で帯状の河岸が含まれている。これと引き換えに州が手に入れるのはイギリス庭園のケーニギン通りの2m幅、80mの長さの建築不可の区画である。ゲオルク・ファーレンション大臣と上級市長クリスティアン・ウデはサーフィンを維持しようと、お役所方式でない解決に合意した⁽²⁹⁾。

2010年5月11日上級市長、クリスティアン・ウデは、『ズウドイチェ・ツァイトゥング』(Süddeutsche Zeitung)のインタビューを受けた。その時のやりとりの一部を[資料1]に示した。このやりとりに、「自己責任」をサーファーに求める姿勢がにじみ出ている。

2010年6月18日、ミュンヘン市は[資料2]の報道発表を行った。この資料が示すように、6月15日の行政命令によって、アイスバッハのサーフィンが合法化された。

2010年6月18日、上級市長、クリスティアン・ウデはアイスバッハを訪問し、サーファーから大歓迎を受けた。IGSMスポークスマン、ペトラ・オファーマンズは、ウデ専用のサーフボードをプレゼントした。そこには「サーフシティー・ミュンヘン」(SURF CITY MÜNCHEN)「ウデ 波の救世主」(UDE RETTER DER WELLEN)と書かれていた。

これを『メルクア』(Münchner Merkur)は、オンラインで以下のように伝えた。

30年経ってアイスバッハのサーフィンがようやく許可された。上級市長、クリスティアン・ウデは、金曜日、最初の合法的なサーファーに歓迎のあいさつをした。まもなく、第2の合法的な波が生まれるであろう。

ウデは、その場にふさわしいでたちではなかった。黒っぽい縦縞のスーツと黒い革靴に身を包み、アイスバッハの岸に沿って注意深く降り立ち、砕け散る波に落ちないようにバランスを取ろうとしていた。登りがややめんどうであったとしても、この日のことはかれの暦のなかに、心地よく刻まれる。というのは、アイスバッハのサーファーたちがミュンヘン市のトップを自分たちの波の救世主としてほめたたえたからである。

「今、ミュンヘンでは中心街でサーフィン文化がようやく全く合法的に展開している。」とウデは、喜びを表し、彼とともにアイスバッハのサーファーたちも喜んだ。木曜日からアイスバッハの波乗りは、いわゆる一般行政命令(Allgemeinverfügung)をもって認められた。それは、新しい水浴およびボート規則が効力を発するまで有効である。今後、サーフィンは「自己責任で」許されると緑の会派、ヨアヒム・ロレンツが説明した。おそらく、月末には市議会がそれを決めるであろう⁽³⁰⁾。

〔資料2〕ミュンヘン市の報道発表「ミュンヘン アイスバッハの歓呼」

ミュンヘン市の報道発表「ミュンヘン アイスバッハの歓呼」

上級市長、ウデが最初の合法的サーファーに歓迎の挨拶。今、ようやく合法的になった最初のサーファーたちを上級市長クリスティアン・ウデ、健康・環境課ヨアヒム・ロレンツ (Referent für Gesundheit und Umwelt Joachim Lorenz)、建設課ローゼマリー・ヒンガル (Baureferentin Rosemarie Hingerl) は芸術家の家に隣接したアイスバッハの波を訪ね、歓迎の挨拶をした。「今や、ミュンヘンではようやく合法的に街中でサーフィン文化が発展することになる」と上級市長、ウデが述べた。合法化はまず、バイエルン州と土地の等価交換によって、最終的には、6月15日火曜日に発効するいわゆる一般的行政命令 (Allgemeinverfügung) によって可能となった。

健康・環境課は目下、市の水浴・ボート条例 (die städtische Bade- und Bootverordnung) の改訂を進めている。「それは多分、6月末に市議会に承認を求めることになる。」とロレンツが語った。「アイスバッハの波でのサーフィンは自己責任で許可される」 (Das Surfen auf der Eisbachwelle ist nun auf eigene Gefahr erlaubt.) という抜本的な条例の改訂である。

水浴・ボート条例が発効するまで、一般的行政命令をもって経過措置 (Übergangsregelung) がつくられた。・・・

(ミュンヘン市とバイエルン州の土地等価交換に関する) 公正証書契約 (Notarvertrag) は5月19日署名された。

市が責任問題を緩和し得るのは、水利権に関する公法上の規定を適用するからである。この点、州は私法の適用を求めている。・・・

建設課ローゼマリー・ヒンガルの言葉によると、「世界的に有名な波の歴史が120年前のプリンツレーゲン通り建設から始まったとは、ほとんど誰も知らないであろう。道路建設は既存の小川に橋を架けることになった。流れる水によって生じる圧力から川底を守るために、いわゆる滝つぼが設置され、それが今では、常に同じところに留まる川の波を引き起こした。」・・・

「目に見えない危険を引き起こすものを特に指摘しなければならない。水中に設置されているいわゆる床止め石 (Störsteine) である。それは、流れる水によって生じる圧力の影響を受けてすでに数十年前から滝つぼのあたりに並んでしまい波を助長している。」

(典拠) Stadt München, Pressemeldung, 18.06.2010

『サーフマガジン』は、ウデがプレゼントされたボードを抱えている写真をHPに掲載し「シティーサーファーが喜んでいる。ミュンヘンの地下鉄やバスでサーファーがボードを小脇に抱えて乗客の一人となることが見慣れた光景になる」 (Die City-Surfer freuen sich und es wird nun ein vertrauter Anblick werden, dass in der Münchner U-Bahn oder im Bus schon mal ein Surfer mit dem Board unterm Arm unter den Fahrgästen ist.) と喜びを伝えた⁽³¹⁾。

長いこと、アイスバッハは実はサーフィン向きではなかった。というのは波がたいてい、素直な水面ではなく、渦をまいていたからだ。それが変わったのはサーファー、ヴァルター・シュトラッサー (Walter Strasser) が30年以上前にアイスバッハの波を変えようとしたからだ。むろん当時アイスバッハは厳しくサーフィン禁止となっていた。フロスレンデではサーフィンが大目に見られていた一方、武装した警官がイギリス庭園を横切って獲物を探し、サーフボードを没収しているのがアイスバッハの光景であった。バイエルン古城・湖沼管理局がアイスバッハを管轄していて、管理責任を理由にサーフィン禁止を再び強化した。だからこそ、アイスバッハのサーファーたちは、ミュンヘン・サーフィン利益共同体を組織し、同時に映画「キープ・サーフィン」が映画館で上演された。広範なメディアの関心、何人かのサーファーの尽力、当時の市長クリスティアン・ウデの介入によって、アイスバッハのサーフィンが合法化されたのである⁽³²⁾。

5. 映画「キープ・サーフィン」

「アイスバッハの波を守れ」(“RETTET DIE EISBACHWELLE”) キャンペーンで有効であったのが、映画の製作であった⁽³³⁾。映画「キープ・サーフィン」はミュンヘン映画祭において観客賞 (Publikums-Preis) を受賞するほど、心をとらえる作品であった⁽³⁴⁾。

『ニューヨークタイムズ』は、扱いは小さいが、2010年4月15日の紙面に他のスポーツ映画とともに、この映画を紹介した。

「ビエルン・リヒー・ロプのキープ・サーフィンは、スポーツのサブカルチャーに目を向け、魅力的もしくは軽薄であり、あるいはその両者であって、聴衆を引き付ける。ミスター・ロプは礼儀正しい自由奔放な集団であるミュンヘンのリヴァー・サーファーの一員である。彼らは、流れが早瀬や障害物のある水路によって作り出される波に乗っているのだ。それは壮観な試みである。熟練者たちは多少なりとも適切な場所で波に乗り、上流に向かい、360°回転し、こちらに向かってくるが一か所に留まっている波の水面でカットバックする。」⁽³⁵⁾

映画の公開にあたり、『ズウドイチェ・ツァイトウング』は、以下の記事を掲載した。

「自身も長年活動的なサーファーであったビエルン・ロプはアイスバッハを舞台とする美しい映画を公開し、その場面の主役である本物の熱意あるサーファー仲間が、そもそも口数の少ない変人であることを公にした。キープ・サーフィンは、5月20日、映画館で公開される。まさに適切な時期に。ちょうど、ミュンヘン市が市のサーフィンを公に認めるように手を差し伸べた (Dach und Fach gebracht) からである。」⁽³⁶⁾

かの『フランクフルター・アルゲマイネ』(Frankfurter Allgemeine Zeitung) は、2010年5月23日、大きな紙面を割いて「アイスバッハのロックンロール」(Rock'n'Roll im Eisbach) というタイトルでこの映画を紹介した⁽³⁷⁾。

紙面の冒頭で「バリでもなく、ハワイでもなくタヒチでもない。ドイツの映画がサーファーの新しい波を紹介している。キラキラした幻想ではなく、リヴァー・サーファーのサブカルチャーである。最高の場所をめぐる熱い戦い、それがキープ・サーフィンだ。」と記した。そこには、ミュンヘンのサーファーの人生ドラマが描かれている。その紙面の概略を以下、紹介する。

「驚くべきことは、この映画は、ドイツで製作されはほすべてが海ではなく、内陸部、たいていはミュンヘンで、ほんの一部がフランス、カナダで撮影されている。対象はリヴァー・サーフィンであり、ミュンヘンのアイスバッハであり、本物のサーファーとその人生であるのだ。」

「監督のビエルン・リヒー・ロプは5年間かけてキープ・サーフィンに取り組んだ。当初はミュンヘンのイギリス庭園にあるアイスバッハを対象とした何編かのビデオ作品を企画していたが、最終的に360時間のデータとなった。〈映画は子供のように育った〉と彼は述べている。〈どんどん大きくなった〉と。美しい映像ばかりでなく、ミュンヘンを舞台とする時代を先駆ける登場人物を描いた。6人のミュンヘン在住者と1人のアメリカ人、エリー・マック (Eli Mack) をロプは描いた。エリー・マックは、おそらく世界一のリヴァー・サーファーであり、ミュンヘンに招かれた。彼自身もフランスとカナダの伝説的な川のスポットを訪問してご恩返しをしている。」

「エリー・マックはサンディエゴ出身、全身にタトゥーをいれた若者で、オレゴンで理髪店を営んでいる。ミュンヘンの若者たちが彼にアイスバッハの波を見せた時、これはいけると彼は驚いた。大都市のど真ん中で彼が今まで見たことのないサーフィンできる波をみて。」

ロプの映画の第二の主役は、ヴァルター・シュトラッサー (Walter Strasser) であった。彼はアイスバッハとサーフィンを見つける前は、暴走族出身の頑固なバイエルン人で、化学工場のタンクの清掃をしていた。長いことかれは波の番人 (der Hausmeister) で、流行に飛びつく俄かサーファー (Modesurfer) が何度もターンする (umdrehen) のを、ある意味、荒っぽいやり方で、監視していた。水量がしばしば少なくなると、すぐに、イギリス庭園の中央部で安定した波を生じ、リヴァー・サーファーがその波に乗って曲芸ができるように大きな厚板を取り付けた。

かつてのタンク清掃士は、今日ではサルディーニャ島に暮らし、アボリジニの金管楽器であるディジュリドゥ (Didgeridoo) を制作している。ミュンヘンとサルディーニャでシュトラッサーは、新しい世界を切り開いた。

クヴィリン・ローレダー (Quirin Rohleder) もアイスバッハでサーフィンを始め、その生涯に情熱を傾けた。彼は

13歳の時から、アイスバツハが彼のあこがれであった。17歳で初めてスポンサーを得て、21歳の時に南仏に赴き、そこでキャンプ場の仕事を始めた。今日、かれはサーフィンの催し物で司会者として、また著述家として働いている。そしてまた多数のプロのサーファー (Surfprofis) のマネジメントを行い、そのなかにマロン・リプケ (Malon Lipke) がいる。

ローレダーは、輝かしい世界を作りだしたロプの映画出演者のなかで、今でもサーフィンを生活の糧にしている唯一の人物である。

他の出演者たちは、市民としての職業に親しみ、楽器製作者、整形外科医、情報科学者、カメラマンなどになった。とはいえ、彼ら全員が依然としてサーファーであるのだ。サブカルチャーのひとつであるサーフィンは晴れの日スポーツとしてではなくハードコアの情熱として行われている。例えば、ミュンヘンの整形外科医、フロリアン・クマー (Florian Kummer) は、フランスのとある河川の洪水が起こっている場所で、それが始まってすぐに映画を見せ、彼が水中の渦からどのように引き上げられたか、友人たちのパニックがどのように起こったか、リヴァー・サーファーが時として危険であることを教えた。

自身が情熱的なサーファーである監督にとって、多くのアメリカの巨大映画製作会社以上にサーファーの心情を表す印象的な映画を低予算で成功させた⁽³⁸⁾。

6. ミュンヘン・サーフィン利益共同体とミュンヘンサーファーの組織化

ミュンヘン・サーフィン利益共同体 (IGSM) の設立は、「アイスバツハの波を救え」運動から始まった。(ES BEGANN MIT “RETTET DIE EISBACHWELLE”) 団体設立時点のメンバー ([表3] 参照) には、この運動の推進者であり、広範な署名運動を行ったペトラ・オファーマンズ、映画「キープ・サーフィン」の製作に関わったビエルン・リヒー・ロプの名前が見える。生まれも育ちも生粋のミュンヘン子、ディーター・デヴェンターは、フロスレンデの最初のサーファーの一人であり、ミュンヘン大学 (LMU) で商学士の学位を修め、写真家、著述家として活躍している⁽³⁹⁾。

IGSMは、そもそもミュンヘンのサーフィンの場に信頼を寄せる活動的なサーファーたち (Surfern/Innen) の連携であった。ミュンヘンのアイスバツハの波を維持し、合法化する活動から始まり、今日、ミュンヘンのリヴァー・サーファーのあらゆる利害を代表する活動グループへと成長を遂げた。

IGSMは長らく、協会 (Verein) ではなく、できるだけすべてのサーファーにとってプラットフォームとメガホンであるための連盟 (Verband) として理解されてきた。IGSMがリヴァー・サーフィンの多数の協会や世界的規模の機関とネットワーク化を図ることによって、このスポーツの媒介者、支援者と (現在では) 見られている。IGSMの活動から、シュテファン・フレーリヒ (Stephan Fröhlich) の管轄のもとに「ウェーヴテクニク・ワークショップ」 (Workshop Wellentechnik) が誕生し、それは引き続き「リヴァーウェーブ・フォーラム」 (Forum Flusswellen) を実現し、現在の事業グループ (AG) へと発展した。

協会定款を持たず自由で拘束されない連盟として活動したのち、グループは、2014年に連盟から協会に再編することを決定した。このことは、政治、行政、諸機関を前にして合法化された圧力団体として機能するために特に必要なことであった⁽⁴⁰⁾。

これによって、この団体の活動目的が明確になったことは [資料3] で明らかとなる。

[表3] IGSM設立当初のメンバー

Petra Offermanns (aka Lucy), Dieter Deventer, Wolfrik Fischer (aka Kirflow), Erich Gassmann, Andreas Haas, Flo Hagena, Wolfgang Janicek, Andi Jobst, Flori Kummer, Carsten Kurmis, Björn Richie Lob, Tom Mayr, Karsten Mohr, Matthias Ramoser, Gerry Schlegel.

(典拠) IGSM, Geschichte

[資料3] 社団法人 ミュンヘン・サーフィン利益共同体 定款

社団法人 ミュンヘン・サーフィン利益共同体 定款

第1条 名称と本拠地

- (1) この協会はミュンヘン・サーフィン利益共同体 (Interessengemeinschaft Surfen in München) と称し、IGSM と略記する。
- (2) この協会は、2014年11月23日に設立され、登記簿に登録され、登記後は名称に社団法人 (e.V.) を付記する。
- (3) 協会の本拠は、ミュンヘンである。
- (4) 事業年度は暦年とする。

第2条 協会の目的

- (1) この協会は、税コード (Abgabenordnung) 「税優遇目的」に関する条項の意味するところにより、公益的目的のみを追求する。
 - (2) この協会の目的は、リヴァー・サーフィンという種目に重点を置き、スポーツ、若者、科学研究を振興することにある。
 - (3) この定款目的はとくに以下によって実現される。
 - I. スポーツ振興
 - a. 定期的な練習ユニットの実施
 - b. 競技会の実施とそれへの参加
 - c. 既存のリヴァー・ウェブ Flusswellen の維持、メンテナンス、一層の発展および新しいリヴァー・ウェブの開発
 - d. ミュンヘンのサーファーの対外的な代理、特にミュンヘン市およびバイエルン州の公的な部署、担当部門、官庁に対して、および報道機関、マスコミに対して。
 - e. リヴァー・サーフィンを目的とするスポーツ場所、造形作品の設立・維持に際して、ミュンヘン市およびバイエルン州の公的な部署、担当部門、官庁への助言
 - f. リヴァー・サーフィンおよびリヴァー・ウェブ調査の促進およびカヤック、スタンダップパドリングのような類似競技との相互交流の促進
 - II. 青少年の育成
 - a. 国内および国際的なリヴァー・ウェブへ自由時間に向かう組織と実行
 - III. 科学研究の促進
 - a. 科学的行事と研究計画の実施
 - b. 調査研究の委託
- (以下の条文は省略)

上記の定款は、2014年11月23日、設立総会において承認された。2015年1月18日、2017年3月12日、2018年3月11日、2019年2月24日の総会において改訂が承認された。

(典拠) Satzung IGSM e.V.

この定款に依拠して決定された「会費規程」は、正会員の年間会費を [資料4] のように定めた。

[資料4] IGSMの会費規程

第4条 会費

- (1) 年間会費の水準は、総会によって決定される。
- (2) 正会員の会費は以下のグループに区別される。

a. 全学納入者 (26歳以上)	30ユーロ
b. 割引 (13歳～25歳)	15ユーロ
c. 子供 (12歳まで)	無料
d. 家族 (全学納入者1名と割引納入者1名)	40ユーロ
e. 名誉会員	無料

(典拠) Beitragsordnung des IGSM e.V.

〔表4〕事業グループ (Arbeitsgruppe der ISGM)

Arbeitsgruppen (AG)	Leitung	事業目的
AG Neue Stellen für Wellen	Stefan Hornung, Thilo Hartung	新規のサーフ・スポットを発見し、ミュンヘンに10か所までリヴァー・スポットを拡大する。すでに新規20の候補を検討。
AG Workshop Wellentechnik	Robert Meier-Staude, Michael Walter	フロスレンデの水流問題の解決がきっかけとなり設立。バイエルン技師会議 Bayerischen Ingenieurkammer と共同でワークショップを開催。
AG Jugend	Waltraud Lang	リヴァー・サーファー後継者の育成。
AG Eisbach 2 (E2)	Lukas Adolph, Manu Ziegler	現状では黙認 (Duldung) 状態にある第2のアイスバッハの波 (Die zweite Eisbachwelle) (Dianabadschwelle) の合法化を目的とする。
AG Floßlände	Sebastian Hüsich, Johannes Herrmann	フロスレンデのサーフィンが継続することを目的とし、発展的に別組織 (ein Verein) の設置を展望する。
AG Nachhaltigkeit und Umweltschutz	Martin Bodmer	CO2削減による温暖化防止に貢献する。

(典拠) IGSM, Arbeitsgruppe

定款の定める活動目的に事業グループを〔表4〕のように組織した。

2020年3月17日に開催された総会で選出された執行部には、ヴォルフリック・フィッシャーを除いて、設立時のメンバーは姿を消した。(〔表5〕参照) このうち、第三、第四、第五理事長および編集長が新規に選出され、フランツ・ファーゼルが新たに金庫番に登用された⁽⁴¹⁾。

2019年9月、IGSMは、市議会のSPD会派を動かして、ミュンヘン市当局 (Landeshauptstadt München Referat für Gesundheit und Umwelt) に4項目の提案 (Anträge) を行った。それが〔資料5〕に掲出した「SPD市議会会派のサーフィン提案項目」である。

このうち、提案3は、フロスレンデにおいて、夏季休暇中の1週間の期間、10時から14時に学童のためのサーフィン・プログラムを実施するという内容である⁽⁴²⁾。

提案4で「ディアナバート・シュヴェツェル」とは、E2 (前掲〔表2〕参照) のことをいう⁽⁴³⁾。

〔表5〕IGEMの現執行部

第一理事長 (1.Vorsitzender)	ヴォルフリック・フィッシャー (Wolfrik Fischer)
第二理事長 (2.Vorsitzender)	シュテファン・ホアヌング (Stefan Hornung)
第三理事長 (3.Vorsitzender)	アクセル・キーッシヒ (Axel Kießig)
第四理事長 (4.Vorsitzender)	トーマス・グラスハイ (Thomas Grashai)
第五理事長 (5.Vorsitzende)	トルステン・マイヤー (Thorsten Meyer)
第六理事長 (6.Vorsitzender)	ティロ・ハルトユング (Thilo Hartung)
第七理事長 (7.Vorsitzender)	ヨハネス・リュツェル (Johannes Rützel)
金庫番 (Kassenwart)	フランツ・ファーゼル (Franz Fasel)
編集長 (Schriftführer)	ユリア・ハーバー (Julia Herber)

(典拠) IGSM, Mitgliederversammlung 2020

〔資料5〕SPD市議会会派のサーフィン提案項目

SPD市議会会派のサーフィン提案I - IV、2019年9月29日、	
提案1	長期的サーフ・スポットとしてフロスレンデの整備
提案2	ミュンヘンにおいてサーフィン初心者のための安全確保
提案3	サーフィン休暇の提案 (Ferienangebote Surfen)
提案4	ディアナバート・シュヴェツェル (Dianabad-Schwelle) に初心者用波を

(典拠) IGSM, Presseerklärung der IGSM e.V. zu den Anträgen Surfen I - IV der Stadtratsfraktion SPD vom 27. Februar 2019

市当局は、提案1. 提案3については回答を留保し、提案2および提案4については、州当局との協議の経過を回答している⁽⁴⁴⁾。

この要求において、市当局との窓口になったのが、SPD会派の市議員7名 (Frau Stadträtin Dietl, Frau Stadträtin Abele, Frau Stadträtin Schönfeld-Knor, Frau Stadträtin Volk, Herr Stadtrat Liebich, Herr Stadtrat Müller, Herr Stadtrat Naz,) である⁽⁴⁵⁾。

アイスバッハの波の合法化運動を通じて、ミュンヘンのサーファー組織とミュンヘン市のSPD会派が蜜月関係になったことを示している。

7. アイスバッハのサーファー

アイスバッハに集まる人たちをミュンヘン市観光局は、(1) 元祖アイスバッハ・サーファーで長髪のヒッピータイプの変人、(2) もともとサーファーではないが、クールな動機でやってくるライフスタイル・サーファー、(3) 派手なビキニでやってきて、サーファーにウインクを贈るサーフグルーピー、(4) プリンツレーゲンテン通りの橋の上から眺める観光客、(5) ジャック・ジョンソン、ケント・ナガノのような有名人、(6) 招かれざる新参者に分類している⁽⁴⁶⁾。

ここでは、本稿でここまで言及することのなかったサーファーをとりあげる。

(1) ニコ・マイスナー

アイスバッハ・サーファーのスポンサーになることを思いついた最初の人がニコ・マイスナー (Nico Meisner) , であり、ミュンヘン・バスター・サーフボード会社 (Münchner Firma Buster Surfboards) の創立者の一人として、現在、同社の代表を務める傍ら、ミュンヘン・サーフ・オープン司会者でもある⁽⁴⁷⁾。

かれは、1980年代にミュンヘンに移り住み、1995年に初めてアイスバッハでサーフィンを経験して以来、定期的にアイスバッハを訪れている。それ以前は、スケートボード、スノーボードなどに親しみ、彼の人生はボードスポーツ (Boardsport) に刻印されてきた。

「あなたにとってアイスバッハとはなにか」と尋ねられ「QOLの大きな部分」 (ein großes Stück Lebensqualität) と回答している⁽⁴⁸⁾。

ニコは、アイスバッハでサーフィンを試みる者のために「アイスバッハ13か条」を作成し、詳細な解説を施している。ここではその「条文」のみを紹介する。([資料6] 参照)

[資料6] アイスバッハ13か条

アイスバッハ13か条 (13 Klischees über den Eisbach)

1. アイスバッハの波乗りは海とは全く異なっている
2. アイスバッハには特別のリヴァー・サーフボードが必要である
3. アイスバッハの波は君にとっても、君のボードにとっても危険である
4. アイスバッハには全く固有の波乗り場面がある
5. アイスバッハ酒場は頑固で新参者を入れない
6. 古典的な波乗りの礼儀はアイスバッハには当てはまらない
7. アイスバッハはドイツで最も優れたサーファーの何人かを生み出した
8. アイスバッハで波乗りをするのは野郎だけだ
9. アイスバッハではバリのサーフ・スポットよりも人があふれている
10. アイスバッハで波乗りをするものは何百人もの観客を見込まなければならない
11. 国際的なプロがアイスバッハに馴染むことはめったにない
12. アイスバッハでは夜も波乗りができる
13. アイスバッハの波乗りはもはや以前と同じではない

(典拠) Nico, DER MÜNCHNER EISBACH: ALLES ÜBER DAS WELLENWUNDER IN DEUTSCHLAND

この第1条、第2条の考え方にに基づき、バスター・サーフボードなる会社を設立した経緯を次のように語っている。

以前、アイスバッハでサーフィンをする者たちは、古典的なショートフィッシュボードを (einen alten, kurzen Fish-Shape) 使っていたが、特別なリヴァー・サーフボードを使えばパフォーマンスが向上する。だから、アイスバッハや他の川の波用の特別のボードを開発する自分の会社を徐々に立ち上げた⁽⁴⁹⁾。

事実、バスター・サーフボードは、古いショートボードより幅広のリヴァー・サーフボードに加えて、リヴァー・サーフィン用のセンターフィン、ノーズガード、レールなど多くの商品をリヴァー・サーファーに提供している⁽⁵⁰⁾。

また、ニコがトップを務める会社 Buster Surfboards は、社団法人ミュンヘン・サーフィン利益共同体のパートナー兼後援者 (PARTNER UND UNTERSTÜTZER) に名を連ね、これを支援している⁽⁵¹⁾。

(2) ジャック・ジョンソン

ジャック・ジョンソン (Jack Johnson) といえば、日本においてもハワイ州オアフ島出身のミュージシャン、シンガーソングライターとして知られているが、アイスバッハと無縁ではない。2008年7月11日夜、ミュンヘン公演が行われたが、当日の昼間にアイスバッハを訪れ、リヴァー・サーフィンを楽しんだ⁽⁵²⁾。

その時の写真が『サーフィン・イヤーズ』に掲載された⁽⁵³⁾。

その時の様子は、「アイスバッハの波は往年のプロサーファーにとって簡単ではなかった。しかし、ちょっとした練習と才能でジャック・ジョンソンはやってのけた。」と伝えられている⁽⁵⁴⁾。

(3) ケント・ナガノ

ケント・ジョージ・ナガノ (Kent George Nagano) は、日系アメリカ人3世でアメリカ合衆国の指揮者である。

2006年、バイエルン王立歌劇場の音楽監督に就任直後に、イギリス庭園のアイスバッハでサーフィンをするのを約束した。そのときの感想は、「とても冷たかった」(Es war sehr kalt) であった。その後、2013年にバイエルン王立歌劇場を退任した⁽⁵⁵⁾。

2015年からハンブルク州立歌劇場の首席指揮者を務めているが、このアメリカのスター指揮者は、2018年3月に66歳となって再びミュンヘンを訪れ、アイスバッハでサーフィンに挑んだ。その時は、「楽しかったが、太平洋で波に乗るのは、全く違った気分だ」(Es hat Spaß gemacht, aber es ist ein völlig anderes Gefühl als beim Wellenreiten im Pazifik) と語った⁽⁵⁶⁾。

かれの生地であるカリフォルニアの太平洋岸に思いをはせているのであろう。

〔なお、上記の文中で、Bayerische Staatsoper、Hamburgische Staatsoperの訳語は、さしあたり日本で一般に使われているバイエルン王立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場をあてた。〕

8. リヴァー・サーフィンの展望

バイエルン土着の曳き板サーフィンは、1972年にアルトゥア・パウリによってリヴァー・サーフィンという革新を引き起こし、現在、ミュンヘンには恒常的に3か所、増水時に1か所の観光名所としてのサーフ・スポットがある。郊外のタウフキルヘンには第5のサーフ・スポットも発見されている。

さらに、ISGMが新規20のリヴァー・サーフィン候補地を指摘するなど、その広がりには留まることを知らない。また、フランスではリヨンの北、「ローヌ川のハワイ」(Hawaii sur Rhône) でのサーフィンやブザンソン (Besançon) のラ・マラット (la Malate) におけるデュ川 (Deubs) でのサーフィンなど、ミュンヘン以外の地でリヴァー・サーフィンが試みられてきた⁽⁵⁷⁾。

ミュンヘンを越えて、リヴァー・サーフィンが普及する可能性がある。〔写真1〕は、増水したパルトナッハ川 (ガルミッシュ・パルテンキルヘン) で行われているサーフィン風景である。川に波が立てば、世界のいたるところでリヴァー・サーフィンができる、と筆者は考える。



〔写真1〕バルトナッハ川|のサーファー（ガルミッシュ・パルテンキルヘン）2016年8月7日 撮影

注

- (1) München, Broschüre 2020, p. 38-40
- (2) The International River Surfing Magazine, What is River Surfing?
- (3) 以下の記述は、とくに断りのない限り、The Wortwellenreiter, Isar Wellenreiter - Münchens Surfspotsによる。
- (4) IGSM, die Floßlande Ursprung
- (5) SZ, 17. Mai 2010
- (6) The Wortwellenreiter, Die kleine Eisbachwelle / E2
- (7) SZ, 3. Okt. 2019
- (8) Gong 96.3, Die Geschichte der Eisbachwelle
- (9) アルツ川はキムゼー（Chiemsee）に源流があり、イン川に注いでいる。（BLF, Gewässerverzeichnis Bayern）ミュンヘンで有名なり
ヴァー・サーフィン、アルツ川にその原点がある。（Chiemgau Tourismus e.V., Fluss-Surfen auf der Alz）
- (10) Meerdavon.com, DER MÜNCHNER EISBACH: ALLES ÜBER DAS WELLENWUNDER IN DEUTSCHLAND
- (11) AA, 01.08.2014
- (12) IGSM, info
- (13) IGSM, Infos zur Benutzung
- (14) IGSM, Infos zur Benutzung
- (15) IGSM, info
- (16) München, Broschüre 2020, p. 38
- (17) Meerdavon.com, DER MÜNCHNER EISBACH: ALLES ÜBER DAS WELLENWUNDER IN DEUTSCHLAND
- (18) IGSM, Infos zur Benutzung
- (19) BVsS, Pressemitteilung, 10. Aug. 2007
- (20) IGSM, Infos zur Benutzung
- (21) MP, 18. Mai 2008
- (22) WR, 01.08.2008
- (23) WR, 12.08.2008
- (24) Bd, 02.09.2008
- (25) 2020年5月、コロナ騒動の真ただ中、ミュンヘン市の新しい市長が選出された。SPDから上級市長ディーター・ライター（Oberbürgermeister Dieter Reiter, SPD）が、緑の会派から第2市長カトリン・ハーベンシャーデン（Zweite Bürgermeisterin Katrin Habenschaden, Fraktion Die Grünen）、第3市長に、このヴェレナ・ディートルDritte Bürgermeisterin Verena Dietl SPD）が選ばれた。（Stadt München, Neue Bürgermeisterinnen für München）
- (26) MWA, 24.03.2009
- (27) WT, 28.04.2010
- (28) WT, 28.04.2010
- (29) AZ, 27.04.2010
- (30) Merkur, Eisbach-Welle, 18.06.10

- (31) Surf Magazine, 28.06.2010
- (32) Meerdavon.com, DER MÜNCHNER EISBACH: ALLES ÜBER DAS WELLENWUNDER IN DEUTSCHLAND
- (33) IGSM, Geschite
- (34) Gong 96.3, Die Geschichte der Eisbachwelle
- (35) NYT, 15. April 2010
- (36) SZ, 20. Mai. 2010
- (37) FAZ, 23. Mai 2010
- (38) FAZ, 23. Mai 2010
- (39) Dieter Deventer, River Surfing
- (40) IGSM, Geschichte
- (41) IGSM, Mitgliederversammlung 2020
- (42) IGSM, Presseerklärung der IGSM e.V. zu den Anträgen Surfen I - IV der Stadtratsfraktion SPD vom 27. Februar 2019
- (43) IGSM, Über die E2
- (44) Landeshauptstadt München, 5604650 Antwort auf Antrag Surfen II Sicherheit et Landeshauptstadt München, 5593128 Antwort auf Dianabadschwelle März 2019
- (45) Landeshauptstadt München, 5604650 Antwort auf Antrag Surfen II Sicherheit
- (46) Landeshauptstadt München, Newbie, Promi, Profi: Kleine Typologie der Eisbach-Surfer
- (47) Jetzt, Die Hauptstadt des Surfens
- (48) Eisbachwelle.de., Nico Meisner
- (49) Meerdavon.com, DER MÜNCHNER EISBACH: ALLES ÜBER DAS WELLENWUNDER IN DEUTSCHLAND
- (50) Buster Surfboards, river Surfboards
- (51) IGSM, Partner
- (52) Eisbachwelle.de., Jack Johnson beim Eisbach-Surfen in München
- (53) Surfing Yearbook, p.41
- (54) Eisbachwelle.de., Jack Johnson beim Eisbach-Surfen in München!
- (55) AZ, 14.03.2012
- (56) WT, 29:03.2018
- (57) SITE FRANCOPHONE DE L'EAU VIVE, Hawaii sur Rhône et Surrider, DOUBS, FRANCE

参考資料

〔刊行資料〕

München, Broschüre 2020: Landeshauptstadt München, *einfach sportlich: München active Seiten entdecken*, 2020
Beitragsordnung des IGSM e.V.: Die Interessengemeinschaft Surfen in München e.V, Beitragsordnung des IGSM e.V.
Satzung IGSM e.V.: Die Interessengemeinschaft Surfen in München e.V, Satzung IGSM e.V.
Landeshauptstadt München, 5593128 Antwort auf Dianabadschwelle März 2019: Landeshauptstadt München Referat für
Gesundheit und Umwelt, An die Geschäftsstelle der SPD-Fraktion, 5593128 Antwort auf Dianabadschwelle März 2019
Landeshauptstadt München, 5604650 Antwort auf Antrag Surfen II Sicherheit: Landeshauptstadt München Referat für
Gesundheit und Umwelt, An die Geschäftsstelle der SPD-Fraktion, 5604650 Antwort auf Antrag Surfen II Sicherheit
Surfing Yearbook: The Surfing Yearbook, 1st edition, 2009, p. 41

〔著書〕

Dieter Deventer, River Surfing: Dieter Deventer, *River Surfing: Flusswellen von München bis zum Amazonas*, München, 2011

〔報道発表〕(紙媒体)

Stadt München, Pressemeldung, 18.06.2010: Pressemeldung Stadt München, Öffentlichkeitsarbeit, 18.06.2010

〔新聞〕

AA, 01.08.2014: Augsburg Allgemeine, 01.08.2014, So funktioniert die Münchner Eisbachwelle
AZ, 27.04.2010: Abendzeitung, 27.04.2010
AZ, 14.03.2012, Abendzeitung, 14.03.2012
Bd, 02.09.2008: Bild, 02.09.2008
MP, 18. Mai 2008: Main Post, 18. Mai 2008
NYT, 15. April 2010: New York Times, 15. April 2010

SZ, 3. Okt. 2019: Süddeutsche Zeitung, 3. Okt. 2019
SZ, 11. Mai 2010: Süddeutsche Zeitung, 11. Mai 2010
SZ, 17. Mai 2010: Süddeutsche Zeitung, 17. Mai 2010
SZ, 20. Mai 2010: Süddeutsche Zeitung, 20. Mai 2010
Surf Magazine, 28.06.2010: Surf Magazine, 28.06.2010
WT, 28.04.2010: DIE Welt, 28.04.2010
WT, 29.03.2018: Die Welt, 29.03.2018
WR, 01.08.2008: Die Welt REGIONALES, 01.08.2008
WR, 12.08.2008: DieWelt REGIONALES, 12.08.2008

[オンライン情報]

BLF, Gewässerverzeichnis Bayern: Bayerisches Landesamt für Umwelt, Gewässerverzeichnis Bayern Verzeichnis der Bach- und Flussgebiete in Bayern, in interrete sub: <https://www.lfu.bayern.de/wasser/gewaesserverzeichnisse/doc/tab18.pdf#page=55>, 01.05.2020

BVsS, Pressemitteilung, 10. Aug. 2007: Bayerische Verwaltung der staatlichen Schlösser, Gärten und Seen, Pressemitteilung 10. August 2007, in interrete sub: <https://www.schloesser.bayern.de/deutsch/presse/archiv07/engl.garten/badeverb.htm>, 01.05.2020

Buster Surfboards, river Surfboards: Buster Surfboards, river Surfboards, in interrete sub: <https://www.buster-surfboards.com/d/riversurfen.html>, 10.05.2020

Chiemgau Tourismus e.V., Fluss-Surfen auf der Alz: Chiemgau Tourismus e.V., Fluss-Surfen auf der Alz, in interrete sub: <https://www.chiemsee-chiemgau.info/geschichten/wasser/fluss-surfen-chiemgau>, 01.05.2020

Eisbachwelle.de., Jack Johnson beim Eisbach-Surfen in München: Eisbachwelle.de., Jack Johnson beim Eisbach-Surfen in München!, in interrete sub: <http://www.eisbachwelle.de/2010/eisbach-surfen-muenchen-jack-johnson-to-the-sea-album-munich-river-surfing-youtube-video/>, 08.01.2020

Eisbachwelle.de., Nico Meisner: Eisbachwelle.de. Nico Meisner, in interrete sub: http://www.eisbachwelle.de/local-heroes/local-surfers/river-wave-surfer_nico-meisner/, 07.05.2020

Gong 96.3, Die Geschichte der Eisbachwelle: Gong 96.3, Die Geschichte der Eisbachwelle, in interrete sub: <https://www.radiogong.de/service/themen/die-geschichte-der-eisbachwelle>, 31.12.2019

IGSM, Arbeitsgruppe: Die Interessengemeinschaft Surfen in München e.V., Arbeitsgruppe, in interrete sub: <https://www.igsm.info/arbeitsgruppen/>, 06.05.2020

IGSM, die Floßlände Ursprung: Interessengemeinschaft Surfen in München, die Floßlände Ursprung des Riversurfens und Muenchens einzige naturliche Anfaengerwelle, in interrete sub: <https://www.igsm.info/flosslaende/>, 27.04.2020

IGSM, Geschichte: Die Interessengemeinschaft Surfen in München e.V. Geschichte: in interrete sub: <https://www.igsm.info/geschichte-verein/>, 30.03.2020

IGSM, info: Die Interessengemeinschaft Surfen in München e.V. info, in interrete sub: <https://www.igsm.info/>, 10.02.2020

IGSM, Infos zur Benutzung: Interessengemeinschaft Surfen in München, Infos zur Benutzung, in interrete sub: <https://www.igsm.info/eisbach-muenchen/>, 31.12.2019

GSM, Mitgliederversammlung 2020: Die Interessengemeinschaft Surfen in München e.V., Mitgliederversammlung 2020, in interrete sub: <https://www.igsm.info/2020/03/17/mitgliederversammlung-2020/>, 09.05.2020

IGSM, Partner: Die Interessengemeinschaft Surfen in München e.V., Partner, in interrete sub: <https://www.igsm.info/partner/>, 06.05.2020

IGSM, Presseerklärung der IGSM e.V. zu den Anträgen Surfen I – IV der Stadtratsfraktion SPD vom 27. Februar 2019: Der Vorstand der IGSM e.V. Die Interessengemeinschaft Surfen in München e.V., Presseerklärung der IGSM e.V. zu den Anträgen Surfen I – IV der Stadtratsfraktion SPD vom 27. Februar 2019, in interrete sub: <https://www.igsm.info/2019/09/29/presseerklaerung-der-igsm-e-v-zu-den-antraegen-surfen-i-iv-der-stadtratsfraktion-spd-vom-27-februar-2019/>, 06.05.2020

IGSM, Über die E2: Interessengemeinschaft Surfen in München, Über die E2, in interrete sub: https://www.igsm.info/e2_-_-dianabadschwelle/, 09.05.2020

The International River Surfing Magazine, , What is River Surfing?: The International River Surfing Magazine, What is River Surfing?, in interrete sub: <http://riverbreak.com/how-to/guides-and-tutorials/what-is-river-surfing/>, 30.04.2020

Jetzt, Die Hauptstadt des Surfens: Jetzt, unter Süddeutsche Zeitung GmbH, Die Hauptstadt des Surfens, in interrete sub: <https://www.jetzt.de/jetztgedruckt/die-hauptstadt-des-surfens-528693>, 09.05.2020

Landeshauptstadt München, Newbie, Promi, Profi: Kleine Typologie der Eisbach-Surfer : Landeshauptstadt München, Newbie, Promi, Profi: Kleine Typologie der Eisbach-Surfer, in interrete sub: <https://www.muenchen.travel/artikel/sport-freizeit/newbie-promi-profi-kleine-typologie-der-eisbach-surfer>, 11.05.2020

Meerdavon.com, DER MÜNCHNER EISBACH: ALLES ÜBER DAS WELLENWUNDER IN DEUTSCHLAND: Meerdavon.

- com, DER MÜNCHNER EISBACH: ALLES ÜBER DAS WELLENWUNDER IN DEUTSCHLAND, in interrete sub: <https://meerdavon.com/eisbach-eisbachwelle/>, 09.01.2020
- Merkur, Eisbach-Welle, 18.06.10: Merkur, Eisbach-Welle: Endlich legal surfen, 18.06.10 in interrete sub: <https://www.merkur.de/lokales/muenchen/stadt-muenchen/eisbachsurfen-welle-gerettet-809891.html>, 03.05.2020
- MWA, 24.03.2009: Münchner Wochen Anzeiger, 24.03.2009, in interrete sub: <https://www.wochenanzeiger-muenchen.de/mc3bcnchen/in-muenchen-darf-bald-legal-gesurft-werden,9688.html>, 04.05.2020
- Nico, DER MÜNCHNER EISBACH: ALLES ÜBER DAS WELLENWUNDER IN DEUTSCHLAND: Nico, DER MÜNCHNER EISBACH: ALLES ÜBER DAS WELLENWUNDER IN DEUTSCHLAND, in interrete sub: <https://meerdavon.com/eisbach-eisbachwelle/>, 09.05.2020
- SITE FRANCOPHONE DE L!EAU VIVE, Hawaii sur Rhône: SITE FRANCOPHONE DE L!EAU VIVE, Hawaii sur Rhône, in interrete sub: <https://www.eauxvives.org/fr/freestyle/voir/hawaii-sur-rhone>, 22.05.2020
- Stadt München, Neue Bürgermeisterinnen für München: Stadt München, Neue Bürgermeisterinnen für München, in interrete sub: <https://www.muenchen.de/aktuell/2020-05/stadtrat-erste-sitzung-vereidigung-buergermeister.html>, 05.05.2020
- Surrider, DOUBS, FRANCE : Surrider, DOUBS, FRANCE: Surrider, DOUBS, FRANCE, in interrete sub: <https://www.surfriderdefenders.org/actions/doubs-malate-wave/>, 22.05.2020
- The International River Surfing Magazine: The International River Surfing Magazine, What is River Surfing?, in interrete sub: <http://riverbreak.com/how-to/guides-and-tutorials/what-is-river-surfing/>, 30.04.2020
- The Wortwellenreiter, Isar Wellenreiter - Münchens Surfspots: The Wortwellenreiter, Isar Wellenreiter - Münchens Surfspots, in interrete sub: <http://wortwellenreiter.de/>, 28.04.2020
- The Wortwellenreiter, Die kleine Eisbachwelle / E2: The Wortwellenreiter, Die kleine Eisbachwelle / E2, in interrete sub: <http://wortwellenreiter.de/riversurfen-kleine-e2-eisbachwelle-muenchen.html>, 29.04.2020